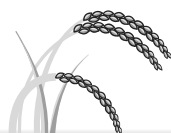


ボクが紹介  
していきよ！



【とくしゅう】

# こども ふれあい農園の 思い出



田植え、ジャガイモ植えをした春。  
トウモロコシのもぎ取りをした夏。  
稲刈り・脱穀・もみすり、  
そしてジャガイモを掘り起こした収穫の秋・・・。  
総勢54人の親子が参加した今年のこどもふれあい農園は  
10月7日に卒園式を迎えました。  
今月の特集では『こどもふれあい農園の思い出』と題し、  
半年間の活動を紹介します。  
案内役は『かかしのゴン』。  
では、さっそく“思い出”をたどってもらうことにしましょう。



5月27日、第1回目の作業を終えて記念撮影。  
田植えとジャガイモ植えの後で、ハイ！ポーズ！



こんにちは、かかしのゴンです。これから今年の「こどもふれあい

農園」でどんなことをしたのかを話していこうと思います。よろしくね。でもその前に『これってなあに？』と思っている人がいるといけないので、まずその話からしていくことにします。



こどもふれあい農園が始まったのは平成10年から。今年で4年目に

なるんだ。どうしてこれが始まったのかって？ それには、こんな考えがあったからなんだ。一つは、このこどもふれあい農園がまちの人に農業や農村を知ってもらうきっかけになればということ。もう一つは、農業の体験を通して、お父さんやお母さんとこれから大きくなくていく子ども達に「農」の大切さを感じてもらいたいということ。言うてみれば、こどもふれあい農園を『農家の人とまちの人とのふれあい』親子のふれあい』の場にしたいという考えから始まったんだ。



こどもふれあい農園の場所は田園風景が広がる北島地区。市民のボ

ランティア、農家の人々、JA道央の人たちに協力してもらいながら、北菜会館近くの田んぼと畑を借りて植え付



ここまで読んでみて『なんだかおもしろそうだから、来年はやってみようかなあ』って思ったキミ。もしそう思ったら、来年の5月ころの広

報を注意して見てね。市役所の農政課から「こどもふれあい農園に参加してみませんか」というお知らせが載るはずだから、見たらすぐに申し込もう！ 次のコーナーからは参加してくれた子ども達を描いてくれた絵や、広報のおじさんたちが撮った写真を紹介するよ。これを見たら、今年のこどもふれあい農園でどんなことをやったのがもつとよく分かるんじゃないかな。それじゃあ、さっそく見てみることにしよう！

報を注意して見てね。市役所の農政課から「こどもふれあい農園に参加してみませんか」というお知らせが載るはずだから、見たらすぐに申し込もう！ 次のコーナーからは参加してくれた子ども達を描いてくれた絵や、広報のおじさんたちが撮った写真を紹介するよ。これを見たら、今年のこどもふれあい農園でどんなことをやったのがもつとよく分かるんじゃないかな。それじゃあ、さっそく見てみることにしよう！

5月27日

はだして田んぼにはいったの



8月5日

自分でもいだのは  
おいしい~!



みうら こうへい  
(若草小1年)

トウモロコシのもぎ方を教えてもらって、たくさんもいだよ。うちに帰ってからゆでて食べたんだ。すごくおいしかったよ。“自分でもいだんだなあ”と思って食べたからお店で買ったのよりおいしかった。



もりや はずみ  
(恵み野旭小1年)

私は田植えが一番楽しかったです。植えるときははだして田んぼに入ったんだけど、初めてでおもしろかったです。いねかりした後、家に帰ってそのお米を食べました。いつもよりおいしかったです。

## 【とくしゅう】こどもふれあい農園の思い出

9月15日

いねかり  
がんばった!



かぬか かずえ  
(恵庭小1年)

いねかりの仕方を農家のおじさんに教えてもらったけど、最初はなかなかできなかったの。でもがんばって10株以上やったよ。できたお米を食べたときはおいしくて、うれしかった。また来年もやってみたいな。

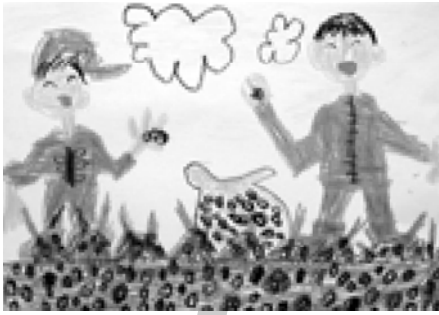


経験したことが  
思い出として  
みんなの心に残れば。



坂本 一雄 さん  
(こどもふれあい農園・園長)

「もともと農業と食に関心があったので、こどもふれあい農園の開設当初から市民ボランティアとしてお手伝いさせてもらっています。園長を仰せつかったのは今年から。参加してくれる親子や農業者のみなさんと接し、私自身勉強させてもらっています。今年一番印象に残っているのは、脱穀のときのこと。下に置いていた稲穂を、知らずに踏んでしまいそうになっている子どもがいました。それを見たお母さんが『手間をかけてできた稲穂なんだから踏まないでね』と言っていたんです。こうした一言から学ぶことがあるはずです。農作業のこと、作物のでき方、食への思いやり、農家の人の大変さなどが、みんなの心に思い出として残ればいいなと思っています。来年は、新たな子ども達、そして今年参加した子ども達と、また会いたいと思います」



9月 15日  
イモほり  
おもしろい!

ボクがいちばんおもしろかったのは、イモほり。掘れば掘るほどジャガイモがいっぱい出てくるんだ。はいてた軍手も真っ黒け。ぼくもみんなもいっしょうけんめいやって、がんばったよ。イモほりおもしろかった!



すぎやま こうへい  
(若草小1年)



植え方も  
教えてもらったよ

自分で植えたり採ったりしたお米、ジャガイモ、トウキビ。ホントにおいしかった。春に種イモを植えるときは少し離して植えるとか植え方を教えてもらったよ。なかなか難しいんだよって友達にも教えたんだ。



なかむら かずき  
(恵み野小1年)

## 思い出☆絵日記

今年3回以上参加した小学1年生・7人に思い出に残る絵を描いてもらったよ。カラーじゃないのが残念だけど、どれもこれも元気いっぱい、思い出いっぱいだね。



9月 15日  
ふれあいの  
イモほり

夢中でイモほりしてたら、長靴の中にも土が入っちゃった。ウチの庭でもお手伝いするけど、広い畑で作業するのは空気が違うような気がして、とても気持ちよかったですなあ。



からさわ こうすけ  
(恵庭小1年)

9月 15日  
楽しかったよ  
カマでいねかり

カマを使ったのは初めて。いねかりは楽しかったです。でも、一番おもしろかったのは、稲を機械に入れて脱穀したとき。家ではビンに入れて、もみすりもしてみたんだよ。



こまつ ふみや  
(恵み野旭小1年)





田植えの後、種イモを植える。  
秋にはいっぱいできるかな。



田植えは5月27日の第1回目。  
田んぼに笑い声が響く。

## 思い出☆アルバム

笑顔・うれしい顔・真剣な顔・・・。  
今年のこどもふれあい農園では、こ  
こで紹介しきれないほどのたくさん  
の思い出ができただろうね。



8月5日のトウモロコシもぎ取り体験。  
食べごころの見分け方も教わった。



9月15日、待望の稲刈り。  
一つひとつ手刈りした稲は乾燥させるため、ワラで束ねて「はさがけ」。脱穀に備える。

田んぼに植える。  
米ができる。  
知識が経験になる。

谷次 廣義 さん  
(協力農業者・下島松在住)



「こどもふれあい農園の米づくり体験に携わって今年で2年目。稲を通じていろいろな人と顔を合わせられるのが、うれしいね。参加した子どもらの表情で印象に残ってるのは、田植えで、田んぼに足を踏み入れたときのこと。普段の生活でドロドロの土の中に足を入れるなんてことをしたら『汚くなる!』って怒られるっしょ。田んぼでしりもちついた子もいたけど、そのときはみんないきいきしてたよ。後は、脱穀してからもみすりで玄米になったときだね。自分で植えた稲が一夏越して米の形になる瞬間なんだけど、みんな食い入るように見てたよ。

本とかで米づくりを知ることにはできるかもしれないけど、それは知識で終わっちゃう。こどもふれあい農園で身をもって体験したことが生きて、その知識が経験になる。子どものころに、こうした農作業や作物に接するのはすごく良いことだと思うよ」

写真の一部は、ホクレンより提供していただきました。



植えたイモが土の中にゴロゴロ。  
みんなでイモ掘りがんばった。



▲北栄会館にて試食会。  
うーん、やっぱりおいしいね。



## 収穫の喜びは 農業者も 参加者も一緒だよ。

吉田 俊二 さん  
(協力農業者・穂栄在住)

「農業やってて何がうれしいかって言うと、やっぱり無事収穫できること。そのために手間ひまかけてるんだからね。この“収穫の喜び”の感じ方は農業者もふれあい農園に参加した人も一緒だと思いますよ。このこどもふれあい農園で収穫やそれまでのみちのりを体験して農業を知ってもらいたい。そんな思いでお手伝いしてます。ただ単に“農村の良さを知らせてあげよう”というだけでなくね。何でもそうだけど、外に出ることによっていろんなことが見えてくるよね。“作物を作る”と一口に言っても、家庭菜園で作ると、広々とした畑の真ん中で作るとでは雰囲気も感じ方も違う。子ども達が農村の環境に入ることによって、いろんな発想が出てくるようになるといいね。作物は毎年同じ物ができる訳ではないから、続けて参加して比較するのも、もっと広い見方ができるのにつながっていくんでないかな」



▲10月7日、乾いた稲穂を脱穀。機械に負けないよう真剣な表情で作業。



▲坂本園長から卒園証が手渡される。  
半年間ごくらうさま。

【とくしゅう】こどもふれあい農園の思い出